




3. 高齢ドライバーの調査



自動車運転中の死者数

	死 者 数	
	平成元年	平成23年
16歳～29歳	1,269人 → (42.2%)	174人 (16.3%)
30歳～64歳	1,557人 → (51.8%)	508人 (47.6%)
65歳以上	178人 → (5.9%)	85人 (8.1%)
計	3,006人 → (100.0%)	1,067人 (100.0%)

*15歳以下の2名を含む

資料一己 23

自動車を運転して亡くなられた方の人数ですが、平成元年と平成23年の比較で、平成元年は全体で3,000人いらっしゃいました。非常に多いですね。それが20年間たった平成23年には1,067人と3分の1くらいに減りました。

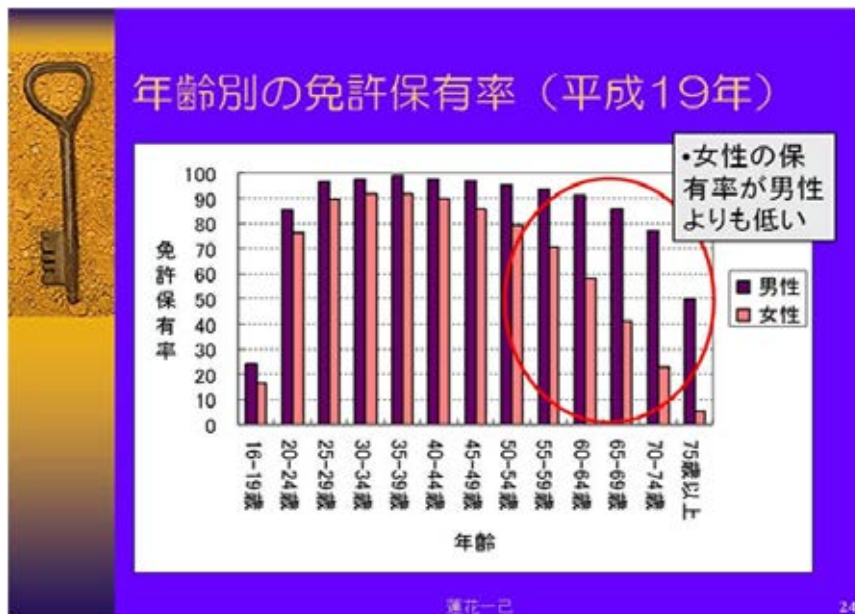
これは非常時にエアバックであるとかシートベルトの着用率が上がったとか、さまざまな対策が功を奏しているのですけれども、一番大きく減ったのはどこだと言いますと、この16～29歳、若者の事故が1,269人、1,300人近くあったのが174人になりました。物凄く減りました。この4割以上が若者だったのです。それが16%くらいに減ったのです。

私たちが高齢者の交通死亡事故の研究を始めようとした時には、平成元年の頃の数字だったのです。

高齢ドライバーより若者の事故を減らしてくれというようなことをいろいろな人に言われましたが、「これから高齢者の事故がふえるから、今から研究していな

いといけないのですよ！」と言い返したことがあります。

この当時、平成元年のころは65歳以上の人は178人の方が亡くなっていました。5.9%です。平成23年では385人です。これは率から言うと36%です。ですから、運転中の死者ですからドライバーとして亡くなる方の3分の1以上が高齢者という時代が今は来ているということです。



これが免許の保有率です。平成19年ですからもう大分たっていますけれども、ここら辺が高齢者です。女性が圧倒的にまだ低いわけですね。今の高齢者問題はほとんど男の人なのですが、これから女性の高齢ドライバーが増えてくる。

高齢ドライバーでも女性と男性は大分違うので、これから女性は女性で危ないこともあると思うのですが、研究はまだまだ進んでいないということですね。

車社会への高齢化の大波がやってくる

- 現在の前期高齢者が後期高齢者になる
- 免許保有率の高い団塊の世代の男性が前期高齢者となる
- 少し遅れて、女性の高齢ドライバーが激増する

やがて、

- 団塊の世代が後期高齢者となる

ただ、はっきりしていることは、とにかく免許保有率は団塊の世代以降、免許保有率が高いですから、団塊の世代は数も多いので、この方々からこれからどつと前期高齢者、後期高齢者になってくると。これが1つの大きな問題で、もう一つは、女性の高齢ドライバーが激増する。こういう車社会の高齢化の大波が押し寄せてくるので、きちんと研究しないと、あるいは対策を立てなければならないと思います。

どんな事故類型で多いか？

- ◆ 出会い頭事故の割合が高い
 - 一時停止・左右確認をしない傾向
 - 相手が止まるという思い込み
 - 発見の遅れ
- ◆ 追突事故の割合が低い
 - 速度が低い
 - 車間距離が大きい

蓮花一己 26


さて、高齢者がどんな事故が多いかというのは、これはやはり統計的には非常にはっきりしてしまっていて、出会い頭事故の割合が高い。交差点で出会い頭事故が起こす事故が多いわけですね。

さっきの自転車とよく似ておりまして、一時停止、左右確認をしないというのが1つある。相手が止まってくれると思う。これは自転車でもよくあるのですが、「そんな無理なことをしたらあかんだろう！」というところを平気で渡り、相手が止まると思ったということをする人は結構おられます。

実際には止まるときは止まるのですが、時々止まらない人もいらっしゃるもので、これは非常に大きな問題だと思うのです。

出会い頭事故が高齢者は多い。その理由は一時停止をしないとかなんですが、この法令違反の図は見にくいので簡単に済ませますが、一時停止しないと、高

そこでもう 20 年ほど前になるのですが、200 人くらいに対して我々は、青森、愛知、京都、熊本、残念ながら香川は入っていないのですが、4カ所で調査を行いました。大体 200 人、正確には高齢者は 160 人くらいですが、そういう全国の大規模調査は日本で初めて行った研究だと思います。そこで教習所の路上コースで走行実験を行ったり、ハザード知覚テストという専門的な言葉を書いていますけれども、要するに危険予測のテストをしたりしました。

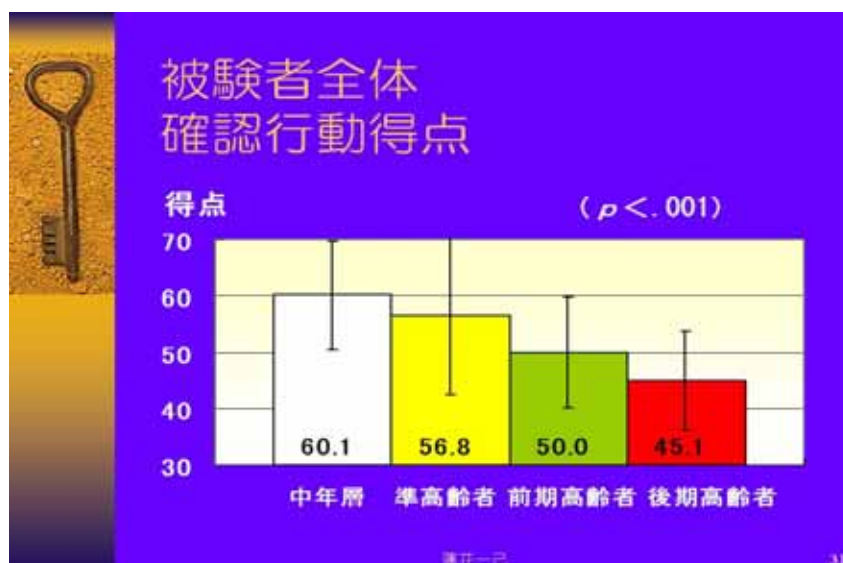


交差点での確認行動と一時停止

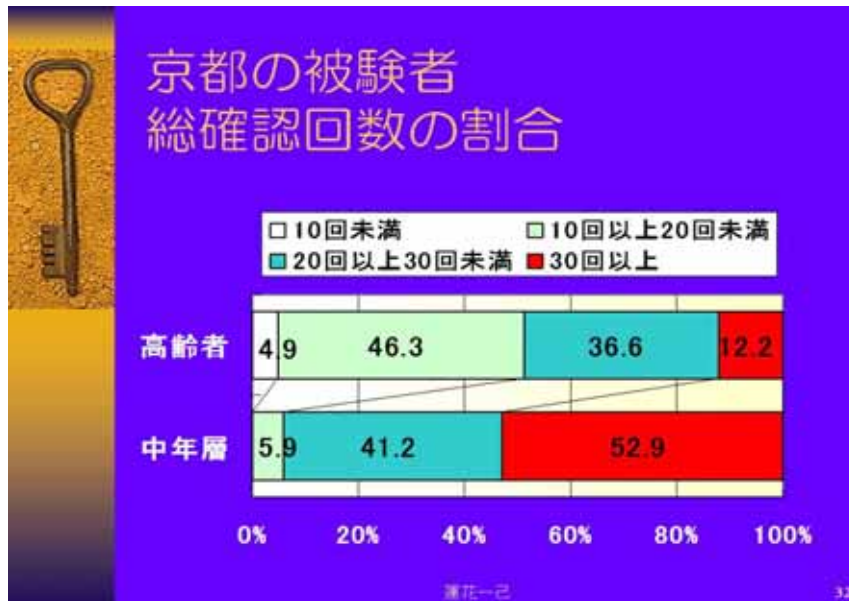
- ◆ 調査参加者 198 名
- ◆ 青森、愛知、京都、熊本の教習所で実施
- ◆ 教習所路上コースでの走行実験
 - 1) 運転パフォーマンスの分析
 - 2) 指導員による運転評価
- ◆ ハザード知覚テスト
- ◆ 質問紙調査

蓮花一己 29

果として、中年層、準高齢者、前期高齢者、後期高齢者とだんだん歳が上がるごとに確認の得点が低下していることが判りました。ここに比べると中年層は 60 点くらいですが、後期高齢者は 45 点くらいで下がっています。



これは京都だけを取り上げてまとめたものですが、



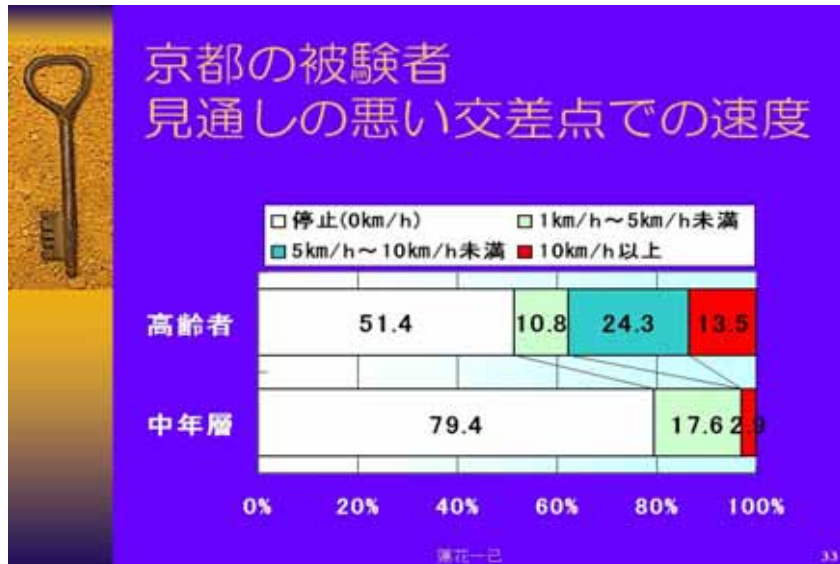
自動車学校の高齢者講習のコースを走ったときの左右の確認の回数を高齢者と中年の人に分けて調べたもので、右を見ても1回、左を見ても1回と数えています。

この時のコースの指導員の人に言わすと30回は見てほしいということですが、カウントしていくと中年層で30回以上見た人が52.9%、やや20回以上30回未満の人が41.2%と半分くらいの方はまあまあいい。半分くらいの方はちょっと少ないという感じです。

私たちの感覚として、大体ドライバー自体が一般ドライバーも含め全体的に確認不足なのです。教習所の人だけではなくて、トラックのドライバーとかバスの職業ドライバーなどの確認を見ると、物凄くしています。

一般ドライバーはその点、ぼーっと運転していますので、ちょっと確認の弱い人が多いですけれども、こんなものかなという感じがしますが、高齢者を見ていただくと30回以上をした人は1割ちょっとです。もう本当に少ないのです。20回以上、30回未満も3分の1くらいで、半分くらいの方は20回未満。左右の確認が少ない人が半分くらいいらっしゃるということが判りました。

ついでに止まっているかどうかも調べたところ、



見通しの悪い交差点で停止しているか、していないか。白が停止、赤が速度 10 キロ以上。

高齢者は普通の道ではそれほどスピードは出していないのですが、止まるべきところで止まらない人が多く、中年層の 8 割くらいが止まっているのに対して高齢者は 51.4%と半分くらい止まらない。止まって確認ができない人が結構いらっしやるということですね。

今のは教習所の中での結果です。

その後我々は、安全確認をちゃんとしているかどうかの調査を一般道でも行いました。

料金所で安全確認をしているかどうかということ調べたのですが、物凄く脇見をしている。料金所が終わって合流、道路が狭くなっていくところでどんなふうに前を見ているかという状態ですけれども、物凄く脇見するのです。

動画を示しますが、この人はもちろん特に脇見をしているから出しているわけで、みんながみんな、こんな運転をしているわけではないのですが、我々はこの合流をするときにちゃんと左右を見ているかどうか、目視して左右を見ているかを調べたのですが、前も余り見ていなくて、下を脇見する行動が凄く特徴的でした。



我々もそこまでひどいと思っていなかったのですが、この実験はこれきりで終わってしまったのですけれども、やはり危ないと思います。

この人は今、高速道路ですが、一般道路でも同じように脇見をする人は脇見が染みついているのです。平気で脇見をしている方がいらっしゃるということがわかって、ちょっとびっくりしました。



次の人は止まらない人です。ここは一時停止交差点ですが、シュワッと行っちゃいますね。これは実は横にスタッフが乗ってしまっていて、その交差点は一時停止交差点だと伝えているのです。本当は伝えたくないのですが、やはり危

ないから伝えようということで、その交差点は一時停止交差点ですと伝えていきます。普通は止まると思いますが、ハイハイとか言って、このとおり止まりません。この人は別の同じようなところも同じように行くのです。多分これが性分になっていて、止まらないのが当たり前になっています。この実験もこれ以上はできなくなって、次にやったときは交差点に立会いの人を立てて、もしも危ないときは旗で強制的に止めるということにしました。そういうような止まらない人の例ですね。

次の動画は一時停止交差点ですけれども、これは最初の研究のところですが、この人には本当ならここに来てほしいのですが、どこを走っているのだという感じで、このまま曲がっていくのです。まず車線変更をしないし、合図を出さないし、一時停止なんかももちろんしないし、確認をしたかどうかは見えませんが問題があります。

物凄くこのタイプの高齢者が多いのです。ちゃんと調査のために来られたから、みんなまじめに運転しているつもりなのですからけれども、こういう方がいらっしゃる。



これは75歳の方ですが、非常に危ないなと思って、我々も初めて調査をしたのでびっくりしたのです。

ところが、高齢者は運転に自信があるのです。